

小網代の森と干潟を守る会
小網代 森と干潟つうしん



森も海も干潟も 奇跡の集水域生態系を未来の子どもたちへ
小網代の森と干潟を守る会
〒238-0111 神奈川県三浦市初声町下宮田 261-5
代表 高橋 伸和 E-mail: info@koajiro-higata.com
TEL.046-889-0067 (仲澤)
URL: <http://www.koajiro-higata.com>
年会費: 一般会員 ¥1000 賛助会員 ¥5000 (入会金不要 7月~6月)

小網代の森と干潟を守る会最後の総会

小網代の森を守る会の最終総会が開催されました。

今回の総会では、神奈川県による森保全が完了したことをうけて、当会の活動方針を変更して新しい名称を付して新しい活動をしようとの議題が議論されました。その結果本号の総会議事録に記載の通り承認可決いたしました。

これまで長い間森の保全を目指して共に活動して参りました。御存じのように昨年7月に保全された森が一般にオープンされ、だれでも自由に森を歩けるようになりました。

思えば四季おりおりに森に入り藪漕ぎして、擦り傷だらけになりながらも、この森が守られればいいねとの思いにかられ、やみくもにやってきたことが、楽しく思い出されます。

同じように森にすむ生き物たちも、この森がどうなってしまうのかと思いながら命を繋いできました。薄暗い藪のなかで出会ったウサギやヘビなどは、いま保全成った森ですこしは安堵しているのではないかと思います。これからは安心して家族を増やして行ってほしいものです。

会員のなかには、新しい森をまだ体験していない仲間も多くいます。これからは新しい名称を

「こあじろの森くらぶ」

とし、会員の皆様とこの森を楽しく体験ながら見守っていくことを主たる目的として活動していくことになりましたので、早い機会に新しい森をまだ体験していない方も一緒に森に入り、木道の上を歩きたいと思えます。

以前の森は長靴と作業着というかっこうで入っていましたが、現在はカップルが手を繋ぎながらきれいな格好で歩いている姿が沢山みられます。なかには階段を車椅子を担いで足の不自由な方をつれてこられる方もいらっしゃいます。このように生まれ変わった森を是非早い機会に体験して下さい。

新しい会はこれから皆さんと共に考えながら作り上げていきます。今回新しい会の新しい会員として登録いただきたく旧会員のみなさまには、会費払込票を同封させていただきます。会費のお払込みをもってその意志表示とさせていただきますので宜しく願い致します。ご不明の点はメールやお手紙でお問い合わせください。

新しい会がどのようになっていくのかは、これからの皆様の参加にかかっています。夢をもって進んで行きたいと思っています。どうぞ宜しくお願いいたします。

高橋伸和

小網代の森と干潟を守る会最後の総会

日時 2015年8月30日(日) 11時から11時40分

場所 三浦市於 南下浦センター 講堂

全体司会 (松下)
開会挨拶 (高橋)
議長選出 (加藤)
資格確認 (松原)

議事

第一号議案 2014年度活動報告 (橋)
第2号議案 2014年度会計報告並びに監査報告 (宮本)(竹内)
第3号議案 会の名称並びに会則変更 (高橋)
第4号議案 2015年度予算案 (宮本)
第5号議案 スタッフ案
第6号議案 その他
議案審議、質疑応答、採決後、議長解任

第1号議案 活動報告案

7.7 森初歩き参加おさそいの、ハガキ発送
7.20 NPO 法人小網代野外活動調整会議・森オープンボランティアウォーク参加
同 「楽しい干潟学」新刊のおしらせ、リーフレットを配る
同 NPO 法人小網代野外活動調整会議代表理事に感謝状と森の応援金 10 万円を贈呈
7.27 つうしん No.135 印刷発行 スタッフ会(於 横須賀市立 市民活動サポートセンター)
8.22 ゼロックス夏祭り(於 海老名)
8.31 第 25 回小網代の森と干潟を守る会総会
議事終了後、第二部で 25 周年記念森歩きを実施(参加者 21 名)
9.2 (公財)かながわトラストみどり財団へ小網代緑地保全へとして 20 万円を寄付
9.27 つうしん No.136 印刷発行(於 横須賀市立 市民活動サポートセンター)
9.28 三浦半島まるごと博物館フォーラム (於 ヴェルクよこすか)参加
10.25 第 122 回自然観察会&クリーン「今、小網代の植物が面白い！」
同 スタッフ会議(於 KISHI ハウス)
10.27 三浦まるごと博物館連絡会参加(県合同庁舎)
11.03 三浦市みどりの市民会議参加(初声市民センター)
11.23 つうしん No.137 印刷発行(横須賀サポセン)
12/06 第 123 回自然観察&クリーン(鳥の観察) スタッフ会(於 三浦海岸駅ヨコサン 2 階)
2015/01/12 スタッフ会(於 髭じいの栖) 森の歩き初め&クリーン
1/24 小網代 森と干潟つうしん No.138 印刷発行(於 横須賀市立市民活動サポートセンター)
2/2 三浦まるごと博物館連絡会出席(県総合庁舎)
2/2 干潟のクリーン
2/7 キララ賞受賞式出席(新横浜)
2/21 第 124 回観察会&クリーン「小網代の早春 海藻と生きもの」
2/21 ナショナルトラスト全国大会出席(表参道、青山学院 IVY HALL)
3/2 干潟のクリーン
3/9~20 加藤利彦氏「30 年の写真展」協力(横須賀三浦教育会館)
3/28 小網代 森と干潟つうしん No.139 印刷発行 スタッフ会 (於 横須賀市立市民活動サポートセンター)
4/29 第 125 回自然観察&クリーン「春の小網代を満喫」 スタッフ会(於 三浦市総合福祉センター)
5/4 スタッフ会(於 横須賀市立 市民活動サポートセンター)
6/6 日本ナショナルトラスト協会総会出席
6/27 小網代 森と干潟つうしん No.140 印刷・発行 スタッフ会(於 横須賀市立 市民活動サポートセンター)

第2号議案 2014年度決算案

| 収入の部 | | | | 支出の部 | | | |
|--------|-----------|-----------|---------|----------|-----------|-----------|---------|
| 科目 | 予算額 | 決算額 | 差異 | 科目 | 予算額 | 決算額 | 差異 |
| 前期繰越金 | 1,097,047 | 1,097,047 | 0 | 通信費 | 100,000 | 69,556 | 30,444 |
| 会費収入 | 250,000 | 67,000 | 183,000 | 交通費 | 30,000 | 19,000 | 11,000 |
| 売上収入 | 100,000 | 151,030 | -51,030 | 事務消耗品費 | 10,000 | 2,802 | 7,198 |
| 寄付金収入 | 150,000 | 71,080 | 78,920 | 研修費 | 10,000 | 0 | 10,000 |
| 森応援金収入 | 270,000 | 93,500 | 176,500 | 会議費 | 80,000 | 93,227 | -13,227 |
| 預金利子収入 | 200 | 108 | 92 | 広報費 | 50,000 | 44,945 | 5,055 |
| | | | | 諸手当 | 100,000 | 125,000 | -25,000 |
| | | | | 諸会費 | 55,000 | 50,000 | 5,000 |
| | | | | 仕入れ | 20,000 | 56,347 | -36,347 |
| | | | | 支払寄付金 | 300,000 | 300,000 | 0 |
| | | | | 30年報道記録誌 | 100,000 | 71,400 | 28,600 |
| | | | | 次期繰越金 | 1,012,247 | 647,488 | 364,759 |
| | | | | | | | 0 |
| | 1,867,247 | 1,479,765 | 387,482 | | 1,867,247 | 1,479,765 | 387,482 |

注1
注2

注1 支払寄付金は前年度はトラストみどり財団を指定していた。
今年度はNPOに10万円の寄付、みどり財団に20万円の寄付をした。

注2 30年報道記録誌作成については会員の加藤利彦氏の協力を得て、30年写真展に換えて実行した。

財産目録

| | | |
|-----------|------|---------|
| 現金 | | 3,820 |
| 三菱東京UFJ銀行 | 普通預金 | 48,946 |
| 郵便振替口座 | 当座預金 | 143,528 |
| 三菱東京UFJ銀行 | 定期預金 | 503,194 |
| 借入金 | | 52,000 |
| | 合計 | 647,488 |

以上の通り報告いたします。

2015年8月30日 会計 宮本 美織 印

上記の通り 相違ないことを認めます。

2015年8月30日 会計監査 竹内 晶子 印

第3号議案 会則の件

こあじろの森くらぶ会則 2015.08.30

1. 名称
本会は「こあじろの森くらぶ」という。
2. 目的
本会は小網代の森をたのしむことを通じて、会員の交流をはかる。
3. 会員構成
 - 1) 本会は小網代の森を愛する会員をもって組織する。
 - 2) 会員は、7月1日から翌年6月30日までの1年間の会費を納めるものとする。

4. 活動内容

- 1) 小網代の森をたのしむことを通じて、会員の交流をはかるための活動。
- 2) 活動報告と自然を紹介する会報の発行。

5. 運 営

- 1) 会員からスタッフを募り、スタッフ会議の決議に基づき、目的達成のために必要な活動を遂行する。
- 2) スタッフ会議の決議は多数決を持って、これを行うこととする。

6. 総 会

本会は年1回、総会を開催する。

7. 財 政

本会は会費、寄付金収入等により運営する。

8. そ の 他

- 1) 本会則の発効は2015年8月30日とする。
- 2) 本会則の改正は総会において、出席者の3分の2以上の賛成をもって、これを行うことができる。

第4号議案 2015年度予算案

| 収入の部 | | | | 支出の部 | | | |
|--------|---------|-----------|----------|----------|---------|-----------|----------|
| 科目 | 15年度予算 | 14年度決算 | 差異 | 科目 | 15年度予算 | 14年度決算 | 差異 |
| 前期繰越金 | 647,488 | 1,097,047 | -449,559 | 通信費 | 100,000 | 69,556 | 30,444 |
| 会費収入 | 50,000 | 67,000 | -17,000 | 交通費 | 20,000 | 19,000 | 1,000 |
| 売上収入 | 100,000 | 151,030 | -51,030 | 事務消耗品費 | 5,000 | 2,802 | 2,198 |
| 寄付金収入 | 100,000 | 71,080 | 28,920 | 研修費 | 0 | 0 | 0 |
| 森応援金収入 | 0 | 93,500 | -93,500 | 会議費 | 100,000 | 93,227 | 6,773 |
| 預金利子収入 | 200 | 108 | 92 | 広報費 | 50,000 | 44,945 | 5,055 |
| | | | | 諸手当 | 125,000 | 125,000 | 0 |
| | | | | 諸会費 | 55,000 | 50,000 | 5,000 |
| | | | | 仕入れ | 30,000 | 56,347 | -26,347 |
| | | | | 支払寄付金 | | 300,000 | -300,000 |
| | | | | 30年報道記録誌 | 0 | 71,400 | -71,400 |
| | | | | 次期繰越金 | 412,688 | 647,488 | -234,800 |
| | | | | | | | 0 |
| | 897,688 | 1,479,765 | -582,077 | | 897,688 | 1,479,765 | -582,077 |

会員を50名とみる。

売り上げは場数が少なくなる方向なので、少なく計上した。

例会では売ることができるので、グッズも作りたい。

森応援金は募集しない。NPOやトラストへの協力はなしとする。

仕入れは売る場数が少なくなるが最低額を計上した。

支払い寄付金はNPOやトラストへの寄付を計上しなかった。

30年報道記録誌は発行を議論中なので、計上しなかった。

第5号議案 スタッフ案

メール対応、電話対応、つうしん対応、会計対応など一部担当を決めておくが、例会などは全員対応で取り組む。

菅野哲生、木皿直規、ジポーリン菜穂子、須藤伸三、鈴木清市、鈴木カヲル、祖父川精治、高橋伸和、中井由実、仲澤イネ子、浪本晴美、橋 美千代、別府史朗、松下景太、松原あかね、宮本美織、山本述子
(50音順)

会計監査(竹内晶子)

第6号議案 その他

代表退任のご挨拶にかえて

木道に沿ってゆっくり歩くと、いろいろなものが五感を刺激します。目に入るものはもちろん、音やにおいや空気の流れ、ときには味覚もかんじられます。

立ち止まって、目をつぶると自分の心臓の音や、呼吸の音まで、いつもは無意識のうちに通り過ぎてゆくたくさんの感情までも新鮮に訴えてきます。もっと感じてくださいと。

どんな所だろうと多くの人々が訪れる小網代の森は、三浦半島の台地のくぼみにひっそりと存在する小さな世界です。

てっぺんから眺めると地面のしわが海に続くようすが良く分かり、斜面からしぼりだされた真水の流れに沿って下っていくと、いつしか足元が海水に浸るところまで歩いてしまう。こんなことが面白いと思う。



木道はとてもよい観察道具だ。手すりに張られた細い糸には、いろいろなクモたちが見られる。近寄ってよく見ると、つかまって餌食になった虫たちも。

手すりには何かはあったあとが、きれいな模様になって残っている。カタツムリなのだろうか、右に左に幾何学模様を描きながらコケを食べたのだろうか、緑色の表面が削り取られて地の色がでてい

止まっているトンボやハチ。日向ぼっこをしているカナヘビ。きれいな羽を開閉しているチョウなどをずいぶん離れたところから気が付いて見ることができる。

流れの中のカワニナやヌマエビ、時にはアユなど。水面をわたるアメンボの光と影模様。流れの音や水の振動を上からしっかり観察できる。

色とりどりの落ち葉が敷き詰められ、まるで絨毯のようになったときは、一瞬とまどいながらも、そっと踏みしめて歩いた。アケビやクリの実がごろんと寝そべっている。

雪の日、木道は白いお化粧をして歩いた人の足跡をのこす。滑った跡もよくわかる。ときにはしりもちも。もちろん鳥や動物の足跡もくっきり。

植物の成長もよくわかる。いつもの角や階段のわきに気が付いた芽がだんだん大きくなり花が咲き、実になり朽ちていく。

静かに木道を歩くと、普段そこにあって気が付かない何かにふと心をとらえられる。そんな瞬間が体験できる。おもしろい道が小網代の森にある。

高橋伸和



画 浪本晴美 詩集「小網代 森・人・海の未来」より

守る会25年の思い出

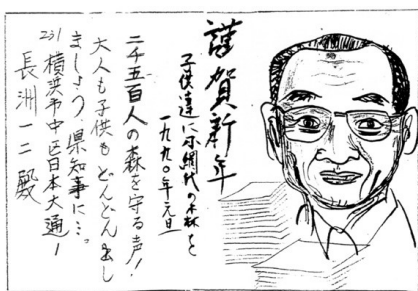
「守る」から「たのしむ」への転換にあたって、
「小網代の森を守る会」の創設メンバーに、四半世紀を超える森への想いを寄せていただきました。

小網代の森と干潟の会を閉じるにあたり 思い出することなど、感謝をこめて

小網代の森を守る会の前身の「小網代から学ぶ会」は1988年11月13日、第一回小網代の森ウォーキングから始まり、巡回写真展、森と海のフォーラムなどを開催、小網代をゴルフ場にしないという願いを持った市民の集まりとして、1990年、小網代の森を守る会発足まで、観察会6回、通信発行20号を数えて、ゴルフ場にしない署名活動などを行ってきました。その中心になった方々は三浦市立旭小学校1年生の担任に誘われて小網代の森の保全活動に携わるようになったのです。学ぶ会のスタッフはほとんどが三浦半島自然保護の会の会員で森を「三浦尾瀬」と呼んだ柴田敏隆先生に案内されていました。(柴田先生は2014年12月に惜しまれてご逝去されました。)

学ぶ会の仕事の中で一番大きいと私が感じていることは、1989年6月5日付けで当時の三浦市長と三浦市議会議員にあてた公開質問状です。4月1日に出された県の「ゴルフ場規制の特別措置の基本方針」「ゴルフ場規制の特例措置に関する取り扱い基準」に基づいて、「もしも小網代の森にゴルフ場ができたらどうなるのでしょうか」と15の質問をぶつけ、これを新聞の折込チラシにして、三浦市民に全戸配布したことです。何と三浦市長から回答がだされ、「ゴルフ場も含め緑も干潟も最大限保全しつつ、適正かつ効果的な開発をしたい」とし、15の質問には「どちらともいえない」の多い回答でした。これも全戸配布して市民に知って貰いました。鉛筆書きの手刷りの印刷物を知恵を絞ってやりました。回答を得て、ゴルフ場は難しいとの感触を得たのを覚えています。

守る会1代目代表のYさん、2代目Mさん、3代目Yさん、4代目Nさんまで、みんな「小網代から学ぶ会」のスタッフがそのまま、守る会の発足にあたり、会則、会費、目標など会の重要なことを決めてきました。観察会などの運営には、岸由二先生を始め、小網代支援のナチュラルリストの集団の方々には最後までお世話になりました。有難うございました。



県の考えでゴルフ場か否かが決まると考えて、県当局には、市民の願いを何百枚の年賀状にして、届けてみたり、県民トラストの応援を受けて森の生き物、景色の写真などを紹介させてもらったりしました。いろいろな場所に出かけてはトラストでの森の保全を訴えたり、通信、自然観察、印刷物の発行など森の良さや貴重さを県民に知ってもらおう活動をしてきたのは会員の皆さんのよくご存知のことです。トラストという限り、その勉強もしなくてはと全国の会に入会して、全国大会に出席して先輩たちの苦労や素晴らしいトラスト地の見学もしてきました。県のトラスト応援という形もありと認めて頂き、大いに勇気づけられました。アカテガニ募金やオリジナルグッズ販売などで県のかながわトラストみどり基金

への寄付も毎年してきました。

1994年、三浦市長ゴルフ場開発断念、県知事「トラストなどいろいろな手法を組み合わせる保全」を表明。これを受けて県に「小網代の森保全対策検討会」が設置され、岸由二先生をはじめ、関係者が集まり、保全への法的措置が検討されてきたわけです。長洲一二県知事に小網代支援の若者たちがキララ賞を受けたとき、一緒に面会して、「トラストで守って」とお願いしてきたのを記憶しています。

1998年、小網代野外活動調整会議が結成され、会は全面的に(金銭も含めて)応援してきました。(法人化されても全面的に応援してきました。)これ以降、数年間は1年中、花、道、鳥パトとして森中を歩き回り、自然の面白さを味わった時代でした。

2005年、70haを国土審議会が近郊緑地保全区域に指定され、国の資金と県の資金の両方で土地の確保ができるようになりました。これは県でも難しい判断があり、担当者は薄氷を踏む思いだったと副知事から直接伺ったことがあります。県の関係者も大変な仕事をしておいでなのだとつくづく有難く感じました。

2011年4月、名称を「小網代の森と干潟を守る会」と変更し、干潟を意識して、活動することになり、2012年、ほとんどの森の土地の公有化がされ、土地利用も変更され、猟区でなくなり、2年の工事を経て、2014年7月20日の開園を迎えたのです。個人的にはビジターセンターのゴミ掃除おばさんの密やかな夢が一瞬、見えて嬉しかったものです。

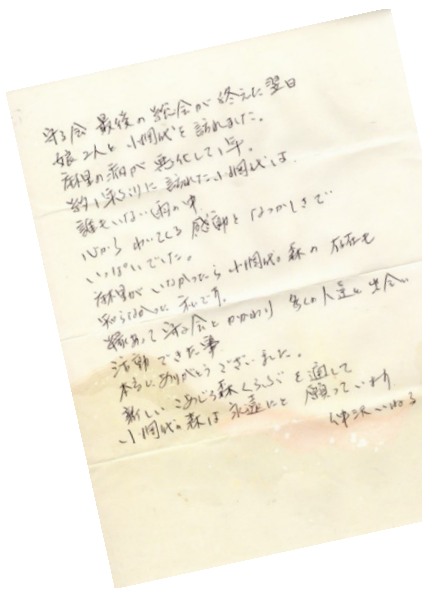
守る会は会員の皆様と一緒に名前を変えながらも、25年間、自然観察とクリーン、会報発行、森案内、かながわトラストみどり基金への寄付金集め、トラスト会員の募集などをしながら、森の保全の応援が出来たことを皆様と共に誇りに思います。

「もういいよ。」と天の声が聞こえてきました。対外的な「守る」に終止符を打ち、長年、一緒に森での時間を過ごしてきた仲間と共に森の恵みの享受に徹することにしましょう。

これからも続く優れた湿地の再生、創造を目指すNPO法人小網代野外活動調整会議の仕事に感謝しつつ。



宮本美織



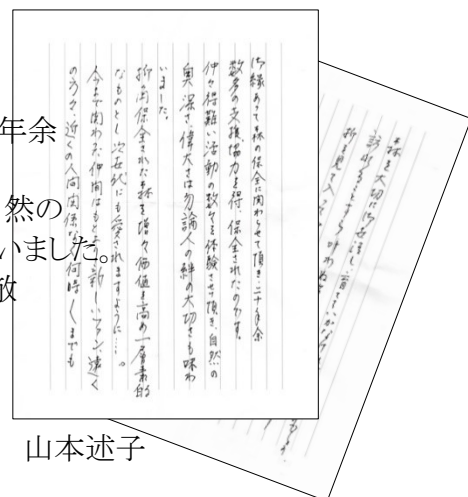
守る会最後の総会が終えた翌日娘2人と小網代を訪れました。麻里の病が悪化して1年。約1年ぶりに訪れた小網代は、誰もいない雨の中、心からわいてくる感動となつかしさでいっぱいでした。麻里がいなかったら小網代の森の存在も知らなかった私です。縁あって守る会とかかわり多くの人達と出会い活動できた事本当にありがとうございました。

仲澤いね子



草木染のハンカチ タグに Koajiro No Mori To higata

御縁あって森の保全に関わらせて頂き、二十余年数多の支援協力を得、保全されたのです。中々得難い活動の数々を体験させて頂き、自然の奥深さ、偉大さは勿論人の絆の大切さも味わいました。折角保全された森を増々価値を高め一層素敵なものとし次世代にも愛されますように…。訪れることすら叶わぬ昨今ですが、そのうち折を見て入ってみたいと思っています。



山本述子

長女の小学校の担任の竹本先生に誘われて、“小網代から学ぶ会”の森ウォーキングや、ポーラノ村の春まつりなどに参加するようになったのは1988年のことでした。学ぶ会主催のフォーラムで初めて岸先生にお会いし、森の自然の貴重さを教えられたのもこのころでした。



学ぶ会は、三浦市にもちあがっていたゴルフ場を中心とする三浦・小網代地域開発を何とか止めたいと、地元ナチュラリストの武田さん、竹本、宮本両先生を中心に結成され、通信を発行し、写真展や森ウォーキングなどを通して広く市民に呼びかける活動をしていました。私は三女出産前後で大した力にはなれませんでしたけど、“ゴルフ場建設凍結を求める署名”を頂きに近所を回り、授乳の度に大急ぎで家に戻ったことを思い出します。

37000人(内三浦市民13000人)もの署名が効いたのか、県は「自然環境保全の観点から特に重要な地域にはゴルフ場立地を規制する」との方針を直ちに公表してくれました。それに力を得て1990年、まっすぐに森を守る目的を前面に出した“小網代の森を守る会”を立ち上げました。宮本先生や地元のお母さんたち(仲澤さん、山本さん、他数名)がスタッフとなり、岸先生たちナチュラリストも強力に会を支えて下さいました。

これだけの規模の森を現実にとやったら保全できるのかというところで、宮本先生が神奈川県にできたばかりの“県民トラスト”(現 かながわトラストみどり財団 みどりのトラスト)という素晴らしいしくみを応援しながら、小網代に“誘致”しようというアイデアを出され、これで安心して進むべき道すじが定まりました。ここから、たくさんの方に小網代の素晴らしさを知って頂き、“森を守って”という意味表示つきのトラスト会員”を増やす活動が始まりました。

この年は横浜で国際生態学会があり、エクスカッションで海外の生態学者が多数小網代を訪れ、首都近郊にこんな素晴らしい自然が存在することに驚き、小網代は保全されるべきだと表明して下さいました。われわれスタッフも同行して、ちょうどエクスポ90で特設されていた三崎港から江の島まで直行の高速艇に乗り込み、婦人センターで行われた会議を傍聴しました。11月には2年に亘って森に張り付いて取材した、NHKの地球ファミリーが放映され大きな反響が起きました。

今振り返ると、このころは怒濤の日々でした。PCもケータイもなく、大事な連絡は電話(イエデン)、文書作成は手書きかワープロでした。個人宅で頻りにスタッフ会議を開いていました。緊張した時期でしたが、観察会には多くの参加者があり、我々スタッフもみな幼い子供たちをつれていて楽しく賑やかに行われました。

少し後になって、お子さんと一緒に参加された浪本さんから素敵なイラスト入りのお手紙をいただき、観察会に子供グループを作ってはとの提案がありました。早速、大人とは別のスピードで動く子供グループを編成し、子供が自然に群がる不思議な力を持った大学生のお兄さん達に手伝ってもらいました。このことをきっかけに浪本さん、そのお友達の橋さんにもスタッフになっていただきました。数人だったスタッフは、いろんなきっかけで20人を超えるまでに増え、それぞれ素晴らしい個性と能力で会を支えてきてくれました。

会の歴史を自分の来し方と照らし合わせながら辿ってみるのですが、思い出が多すぎてこの調子ではなかなか現在まで到達しそうにありません。最も印象深いのはやはり草創期で、熱く、フル回転で、みんな若かった！そして驚くことに、今の会員さんの多くは、草創期から応援してくださっている会員さんだということ。本当に本当に感謝もうしあげます。

浦の川の流れと同じで、関わった人それぞれが自分はここからと思う始まりを持ち、自分だけが知る景色を持ち、仲間と合流しては共有するものが増えていく。そして、太く穏やかな流れとなって無事目的地の海へと到着したのです。夢のようだった森の保全が、実現したのです。

これからはゆったりと、森を楽しみましょうね。

●日時 12月3日(日) 10時集合 15時解散
●場所 引橋バス停 <雨天12月10日(日)>
●持ち物 弁当 長ぐつ 観察用具 やみか
ゴミ袋(ゴミ拾いします。) 材料とおまん

松原あかね

月とアカテガニ

中井 由実

幼なじみの訃報を受けて
訪れたお通夜の空には
亡くなった友の笑顔のような
大きなまんまるい月が浮かんでいた
並んで見上げた友人が
お月様が大好きなの と言った

月を見てはアカテガニを思う私は
小網代の詩をその友に送り
それを読んで彼女は

今年是小網代に行くと言った
長々と書き送った注意事項のメールを読み
一人 彼女は夏の盛りの小網代湾へ出かけて行った

カニが！わんさか！ぞろぞろ出てくる！
ボラが！これまたわんさか、取り囲んで！

帰路の京急電車から届いたメール
おたがいが六つの頃から知っているから、
小さい生き物たちのすごい現場に驚いた
彼女の表情は 見なくてもはつきり分かる

昼間の青空に白い月をみつけると
嬉しくなると語った友
満月をめざすアカテガニ
この夏
月がまたひとつの縁を結んだ

会員便り

総会の委任状にコメントをよせていただきました

| | | |
|--|--|--|
| みんなのために汗を流して下さい。 E.Fさま | 会報の内容が豊かであり、おどろいています。 T.Nさま | 小網代は近くて遠い。 S.Aさま |
| いつも御苦勞様です。 M.Hさま | よろしくお願ひします。 N.Nさま | 森は変わりましたね。 H.Kさま |
| お世話様になってます。 よろしくお願ひします。 M.Kさま | 今までのご尽力に心から感謝申し上げます。有難うございます。 K.Tさま T.Tさま | 先日、行ってきました。いい気持ちです ごせました。今後も、よろしく。 S.Oさま |
| 新たな方向へと生まれ変わっても会を 応援していきます。がんばってください。 K.Eさま | 他用があり欠席させていただきます。永年 に亘る皆様のご努力に敬意をしています。 S.Yさま | 三浦に帰るたびに、小網代の森を訪れ るのを楽しみにしています。 H.Sさま |
| You are doing very important work. Thank You!! C.Bさま | ますますの活動展開、頑張ってください。 T.Fさま | いつも つうしん ありがとうございます。 No.140...と見て あらためて歴史を感じ ています。 K.Kさま |
| 以前と比べて、小網代のかわりよう におどろいています。でもカニたちは 相変わらず元気なようで、和蘭も ひっそり咲いているのもなごみま す。 H.Sさま | 高校生になって久しぶりに参加した 自然観察クリーンで、整備された森 を満喫したようです。今後の御発展 をお祈り申し上げます。 M.Tさま | いつも小網代森と干潟つうしんをお送り いただきありがとうございます。なかなか 出向けないので季節のお便りで満足し ています。 H.Mさま |
| 何もできませんが、小網代の森のこ とを、いろいろの形で知り発展を、 応援しております。 S.Fさま | 何のお手伝いも出来ず、心苦しく思 っています。皆様の長い間のご努力 に心服いたしています。 Y.Oさま | これからも美しい自然の残る小網代 の森を守る活動に微力ながら協力さ せて頂きたいと思ひます。 K.Kさま |
| 本年のYCCよこすか海洋シンポジ ウムにて、岸先生のお話をうかが うことになり、楽しみにしております。 S.Kさま | 長年の小網代の森保全活動、お世話 様でした、神奈川県による森の保全 になりました事、心よりお喜び申し 上げます。 S.Oさま | 遅くなりました。いつも忘れてしまい申 し訳ございません。年会費は用紙が入 っておりませんでしたので、近々送金 致します。 T.Iさま |
| これまでの活動から、今後の活動へ の移行が苦勞するところだと思ひま す。皆様の良きアイデアが出せるこ とを念じています。 N.Yさま | <p>西の甲子、みなさまへ夏のご挨拶 申し上げます!</p>  | 総会で会名称の変更を提案するとあ りますが、現在の名称と変更する必 要があるのか疑問です。総会には出 られませんが、あえて意思表示を！ K.Dさま |
| 総会をはじめイベントへの参加が出 来ませんが、スタッフの皆様の活動 をかげながら応援させて戴いており ます。今後共宜しくお願ひ致します。 M.Iさま | 4月29日の会の観察会に初めて参加 しました。小網代の森が、守られてい くように、今後も観察会を通じて、見て行 きたいです。 K.Nさま | スタッフの皆様ほんとうに感謝のひと 言です。動・植物にとって厳しい地球に なりつつありますが、少しでもくい止め る努力をしていきたいと思ひます。 N.Uさま |
| 小網代が大好きな方達の文章や詩を 読んで楽しんでます。お友達も皆 年と共におっくうがりやになり、私 も独りでは行く気にならず月日がた っていますが…。 S.Oさま | おたよりや新聞で小網代のこと紹介 されていると、うれしいです。守 る会の皆様の絶え間ないご努力に頭 が下がります。一度、犬と共に訪れ たいと思ひています。自然は守りたい ですね。 H.Fさま | いつも会報を送って頂きどうもあり がとうございます。いつも楽しみに しています。行事にはなかなか参加 できませんがこれからもよろしくお 願ひ致します。 H.Sさま T.Sさま U.Sさま |
| 総会 etc.なかなか参加できず、申し 訳ありません。観察会には、少なく とも年1回は参加しようと思ひてい ます。これからもよろしくお願ひし ます。 K.Sさま | 初めて小網代の森へ行ったのは、もう20 数年前、越して来てすぐ小学校の校庭 で宮本先生とお話をする機会を得て、案内していただきました、「トロの森だあ 〜」と子ども達は大喜びでした。新しく整備された森へ今度は孫を連れて行き たいと思ひています。 A.Sさま | |

随想 小網代でんてん ⑬

終の住み処 — フジツボ

須田漢一

潮の引いたイギリス海岸で、頭を出した岩に、フジツボが固まっていた。

「つうしん第126号」で小倉雅實氏が「小網代湾の干潟ちかくで見られるフジツボにはシロスジフジツボ、サンカクフジツボ、ヨーロッパフジツボ、イワフジツボなどがある」と書かれているが、ここにいるのは富士山型のシロスジフジツボだと思う。

フジツボはエビやカニのなかまで、親から放棄された幼生は海を漂って、終の住み処を物色する。初めは与えられたエネルギーで動きまわりますが、それが切れた時、やむなく近くの岩や崖壁、船などに張り付く。まずは海水に溶けこんだカルシウムを素に、自前で石灰質の家を造ってもぐりこみ、その中で脱皮を繰り返し、成長する。からだが大きくなるにしたがって、殻は少しずつ継ぎ足していく。

フジツボのそうした自助の生き方は、巻貝の殻やカイメンなどにちやっかりともぐりこむ、ヤド

カリ類の不精さとは大きな違いがある。

シロスジフジツボの殻は山頂から麓まで、ぐるりと囲まれた円錐体の頑丈な造りで、人の手などではとても剥せない強さで岩にびったりと張り付いている。これなら鳥やカニなどの捕食者に壊されることはないだろうし、潮間帯で受ける波浪と干潮どきの乾燥にも十分に耐えていける。山頂部には蓋板と呼ばれる4枚のふたがあり、満潮時にあらかじめ取り込んだ海水を逃がさないよう、干潮時にはびたりと閉めている。岩の上には開けっ放しのものが目立つけれども閉め忘れたのではなく、すでに主の居なくなつた遺骸で、空き家は少しずつ海水の中に溶けて、海に還る。

— やがて潮が満ちて岩棚が没する、とフジツボはイソギンチャクの触手のような細い脚(つるあし)を殻の隙間から差し出し、脚に生えた毛に付着するケイ藻類やプランクトンを集めて食べる。乾きに耐えたのちに食事をするひとときは、部屋の中から一步も外にでないフジツボが、生を満喫する時かも知れない。

地球上にフジツボが誕生したのは1億7千万

年前の中世代・ジュラ紀に、まずムヘイミヨウガガイ垂目が現れ、それから1億年を経過した白亜紀の後期(7000万年前)にシロスジフジツボのような富士山型のフジツボが出現した、と地球史は語る。遠い地質時代から、過酷な海の環境変化をのりこえて生き続けてきたその生活史には、悠久で果てしないロマンを感じる。

現在、各種の産業はもとより、政治、経済、交通、通信のグローバル化が進み、神経や肉体を酷使して世界中を移動する人類の生活は、果たして幸せといえるのだろうか。

終の住み処を守って一生を終えるフジツボを見ていると、文明とは、進歩とは何なのだろうか、と思う。

風の音、波の音、海鳥の鳴き声のなかに、小網代干潟のときが、ゆつたりと流れていく。

(2013 6 / 15, 7 / 17 観察)



小網代の森と干潟を守る会の活動

◆小網代の森と干潟を守る会の活動

- 5/4 スタッフ会議(於:横須賀市立 市民活動サポートセンター)
- 6/27 小網代 森と干潟つうしん No.140 印刷・発行(於:横須賀市立 市民活動サポートセンター)
- 6/27 スタッフ会議(於:横須賀市立 市民活動サポートセンター)
- 8/4 スタッフ会議(於:横須賀市立 市民活動サポートセンター)
- 8/30 スタッフ会議(於:南下浦市民センター)
- 8/30 小網代の森と干潟を守る会最後の総会(於:南下浦市民センター 講堂)

ご寄付ありがとうございます

福井すみ代さま 石川登美子さま 橋ちひろさま 倉内太輝さま 別府史朗さま
以上の方にご寄付をいただきました

こあじろの森くらぶ入会(会員更新)のお知らせ

小網代の森全域の保全が完了したのは2010年のこと。そして、2014年7月20日、誰でもが入れられる緑地として小網代の森が再オープンした時の嬉しさとときめきと言ったら、とても言葉には尽くせません。その間、小網代の森を守る会は「小網代の森と干潟を守る会」と改称し、森を見守りつつ干潟を中心に活動してまいりました。

今般、干潟の保全活動も NPO 法人小網代野外活動調整会議が一括して行う体制となったため、小網代の森と干潟を守る会の、森と干潟を「守る」という活動は終了いたしました。これを受けて、当会は「こあじろの森くらぶ」と改称し、森を静かに見守りつつ楽しみ、お仲間の交流を深める会として再出発いたします。新しい会の活動にご賛同いただけましたら、是非会員の更新をお願いしたく、振込用紙を同封させていただきました。

小網代の森が紹介されます

NHK テレビ(地上波)で放映されます

さわやか自然百景「神奈川 小網代の森」10月11日(日) AM7:45~7:59

* 「干潟のゆりかごの小さな住人たち」「干潟の雑学」を休載いたしました

小網代 森と干潟つうしん NO.141(最終号) 2015年9月27日発行

森も海も干潟も 奇跡の集水域生態系を未来の子どもたちへ

小網代の森と干潟を守る会

〒238-0111 神奈川県三浦市初声町下宮田 261-5

代表 高橋 伸和 E-mail: info@koajiro-higata.com

電話 046-889-0067(副代表 仲澤)

URL: <http://www.koajiro-higata.com>

年会費: 一般会員¥1000 賛助会員¥5000(7月~6月 入会金不要)